



### 東京革工組合

### 千代田製靴會社と團體協約成立す

### 吾構第三支部の再建

千代田機械製靴株式會社(東京市向島區吾構町七ノ一八従業員百六十名)には昭和二年總同盟東京革工組合吾構第三支部が組織されてゐたこともあるが、その後例の田中小二郎等の裏切などあり支部は潰れ、一時組合同盟に屬したこともあるが、今回再び革工吾構第三支部として復活、會社と團體協約を締結して職生の意氣も斐々しい。その發會式が九月三日夜盛大に行はれた會場は吾構第三小學校。全組合員出席意氣軒昂のうち同會者高橋芳雄君の

千代田製靴會社(東京市向島區吾構町七ノ一八従業員百六十名)には昭和二年總同盟東京革工組合吾構第三支部が組織されてゐたこともあるが、その後例の田中小二郎等の裏切などあり支部は潰れ、一時組合同盟に屬したこともあるが、今回再び革工吾構第三支部として復活、會社と團體協約を締結して職生の意氣も斐々しい。その發會式が九月三日夜盛大に行はれた會場は吾構第三小學校。全組合員出席意氣軒昂のうち同會者高橋芳雄君の



### 日本石炭坑夫組合

### 第三回年次大會

福岡縣飯塚市五田道明寺牧師所  
各支部委員の任務を北村外一名

女 砂塚よし子 伏見とし子 吉田ゆき子 三名  
工場内現業委員交渉の件  
鐵道現業委員會議案の件  
以上審議決議す

開會の辭を述べ、議長に野澤龜三郎君を推し、安田忠勝、細川子之吉兩名を書記に任命して議事に入り

松島要之助 中島 榮  
高橋正吉 小田市郎  
役員発表

代表して挨拶をなし、これで發會式を閉じ、引続き紀念演説會に移り、山下鶴松君の山下海老澤、茂澤清、熊本虎藏、松岡駒吉、鈴木文治諸氏が熱辯を吐いて聽衆に感銘を與へた。

新役員  
安部長(松島要之助) 副安部長(高橋芳雄) 幹事(前林利三郎) 會計(小島榮) 監査(古川海太郎) 幹事(野澤龜三) 細川子之吉 高橋正吉 小田市郎 新倉五郎 吉川栄一 富田政雄 竹内英雄 石井登 佐野洋一 藤本藤吉 高橋信一(書記) 安田忠勝

### 値下問題 有利解決す

### 麻生系炭坑争議 全要求を貫徹す

東京府下、大板炭業八王子工場は八月二日、營業不振を理由に一割五分の値下げを發表した。全員は絶對反對を唱へ、會社と交渉の途程、交渉不調に終らんとしたため、急遽關東労働同盟に報告したところ、同盟から労働

一、礦山監督官行政職能に關する件  
二、労働法改正に關する件(可決)  
三、鮮人坑夫虐待待遇反對に關する件(可決)  
四、ヨロケ病を職業病に公認する件(可決)  
五、フアツシヨ粉塵に關する件(可決)  
六、本部提出 官 崎 太郎  
七、本部提出 山本 初太郎  
八、本部提出 山本 初太郎  
九、本部提出 山本 初太郎  
十、本部提出 山本 初太郎

福岡縣田川郡上野村赤池炭坑附近地帯が、炭坑作業の爲め現今三尺八寸の陥没となり、浸水激しく、町民除炭の苦みに堪え兼ね、我が坑夫組合本部の應援の下に浸水防水の要求を提起したるに、明治礦業株式會社は頑として拒絶したので、争議となり、七月七日から官憲共同の會社強壓に對抗してゐた事情に關しては既報の通りである。此の問題は組合長伊藤卯四郎君が福岡縣會議員として、縣當局に嚴重なる抗議をなしたので、漸く縣當局が調停に立ち、なり、争議費用四百圓也を支拂ひ、九月八日致に圓滿なる解決を見た。闘争日數實に六十四日である。

出陣行委員來任 辻に對して結果として一割五分値下げは中止し、之に代へて従業員が賃銀五分引きを承認することとなり、この紛議は圓滿裡に解決することが出来た。

に解決す。同地方の労働者に非常なる好影響は、同地方の労働者に非常なる好影響を與へ、解決と同時に十名の新加盟を見た。

一、資格審査委員 長尾安一郎外四名  
二、審事委員 山本初太郎外四名  
三、職員委員 宮崎太郎外四名  
四、法規委員 森本勇外四名  
五、役員監査委員 木田三郎外四名  
六、役員委員 森本勇外四名  
七、役員委員 森本勇外四名  
八、役員委員 森本勇外四名  
九、役員委員 森本勇外四名  
十、役員委員 森本勇外四名

組合長伊藤卯四郎(主事) 宮崎太郎  
會計監査 飯野駿太郎  
立石利雄(顧問) 木田伊三郎  
佐野山本 山本初太郎 北村杉夫  
藤田 佐野山本 森本勇 小原實吉  
大木 松田進太 長尾安一郎 白石俊吉  
以上十名  
理事 新開久吉 村本利和 渡井勝三  
副理事 合原泰太郎  
以上



### 八王子労働組合

九月十七日重要報告を提出し、争議となつたが、同争議は初め七十名の参加人員によつて開始されたに拘らず、漸次、人員を増し、遂に五坑四百五十名の参加を見た。然して炭坑側及び之に呼應する官憲の強壓下に悪戦苦闘を續けたが、九月四日深更、飯塚警察署長浦川氏及び町有志田中幸太郎氏の斡旋により、筑豊に一大セーションを起した同争議は、要求書(前號記載)の全部を會計側の承認することとなつたので解雇百九十名を承認し、圓滿に解決した。

向、會社は解決にあたりて金四十五百圓也を解雇手當並争議費用として支拂ふた。

會計報告は次の通りである。

争議會計報告  
一、會社よりの解決費  
總收入 金四千五百圓也  
總支出 金四千五百圓也  
(内訳)  
▲収入之部 三、〇〇〇、〇〇〇  
一、解雇者手當金 一、五〇〇、〇〇〇  
二、争議關係者に一任せられたる金 四、五〇〇、〇〇〇  
▲支出之部 三、〇〇〇、〇〇〇  
一、解雇者百九十名に對し 三、〇〇〇、〇〇〇  
二、争議費用に充當 一、五〇〇、〇〇〇  
三、學費費用決算(自昭和七年八月十四日) 四、五〇〇、〇〇〇

支出之部  
一、宿舍費 一、三五八、五〇〇  
二、食料費 八、〇七三  
三、食料費 四七、六二二  
四、食料費 二九七、〇〇〇  
五、物品用品費 八、三〇〇  
六、通信及郵便費 一〇、五〇四  
七、人件費 七五、九〇〇  
八、交通費 三九、五〇〇  
九、印刷費 三三、七五五  
十、印刷費 三三、七五五  
十一、會議費 三三、七五五  
十二、諸雜費 三三、七五五  
計 一、六九五、〇〇〇

解雇手當分配方法  
解雇者百九十名に對する分配金額  
一、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
二、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
三、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
四、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
五、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
六、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
七、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
八、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
九、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
十、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
十一、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
十二、金三千四百二十圓を上三坑轉坑坑夫  
計 一、六九五、〇〇〇

### 昭和七年度 大會

關西紡織産業労働組合  
日時 昭七、九月十一日午前十時  
場所 北區天六、於市市民會場  
出席議員數 男女合數二百十八名  
議長 西尾組合長  
書記任命 吉永親光 山本二郎 原田實  
副議長選舉 竹内清 國島泰次郎

全國紡織労働組合  
つたので、圓滿に左の如く解決した。

解決條件  
一、工場主は、さき發展したる解雇者九名を復職せしむる事  
二、工場主は解雇者に對し内規手當並に豫先手當十四日分の外特別手當として七百二十四圓を支給する事  
三、工場主は中央硝子工組合を公認する事  
四、從業員は誠意を以つて工場に努力すること